

高額医療費 壊れた老後

連載「報われぬ国」では11月28日付朝刊で第3部「療養不安」を始め、病気になるまで自己負担の治療代が払えずに「無料低額診療」の病院にかけこむ人がいることをお伝えしました。療養の現場では、病気になるって生活苦に悩む高齢者も多くいます。

報われぬ国

第3部 療養不安

夫婦ともに病に倒れ、老後の人生設計が狂ってしまった。「人生の終盤にこんな苦痛が待っているとは思いませんでした」。妻(66)はつらそうに



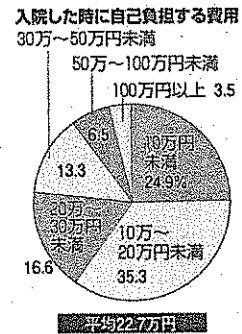
夫と離れて老人ホームで暮らす妻は食堂のテレビで一人、相撲をみていた—東京都内

医療費の自己負担

公的医療保険は、原則として医療費の7割が保障、3割が病院窓口で払う自己負担になっている。ただし、原則として小学校入学前の子も70歳以上は1割になる。高額療養費制度では、70歳未満は月収五十万円までなら月約8万円、70歳以上は現役並みの収入(月収28万円以上)に満たない「一般」が月約4万円、といった自己負担の上限がある。

高齢者の自己負担

ベッド・食事 治療以外に入院代



入院した時に自己負担する費用 30万~50万円未満 50万~100万円未満 100万円以上 10万円未満 10万~20万円未満 20万~30万円未満 30万~40万円未満

自己負担分は原則2割だ。75歳以上の妻は後期高齢者医療制度により1割で済む。さらに、大病で治療代がかさむ場合は自己負担を抑える高額療養費制度もある。70歳以上では、収入の区分が「一般」の家庭なら自己負担は1人あたり月に約4万4千円が上限だ。しかし、これらの保険や制度だけでは、2人の生活は守りきれなかった。病気になるまで、夫婦の収入は月に14万円の厚生年金金だけが頼りだった。一方、高額療養費制度を使っても、手術や入院などでの治療代の自己負担は2人で月に9万円近くもかかる。それだけではない。入院すると、健診や高額療養費制度の対象外の費用がかかる。治療そのものではない「ホテルコスト」だ。「食事代」1食260円、「寝間着とタオル代」1日350円、「オムツ代」1日650円。夫婦は、これらの費用がそれぞれかかったという。6人部屋に空きがないなどとして、4人部屋に入ることもあった。その際は「差額ベッド代」として1日約2万円(約16万円の給料と月約14万円の年金があり、病気がなければ暮らしていた)。しかし、病気になるまで生活は成り立たなかった。

入所費払う息子も病気に

「知り合いもない場所に母を送り出すのはしびない。けれど、支え続けるのは経済的に限界だった」。東京都江戸川区のタクシ会社で事務職をする女性(61)は11月、91歳の母親を茨城県の特別養老老人

夫婦別々の施設 夫は50代半ばまで運輸会社に勤め、がんによるまで不動産会社に働き続けた。年金の保険料も健康の保険料も納めてきた。手取りで月約16万円の給料と月約14万円の年金があり、病気がなければ暮らしていた。しかし、病気になるまで生活は成り立たなかった。

「知り合いもない場所に母を送り出すのはしびない。けれど、支え続けるのは経済的に限界だった」。東京都江戸川区のタクシ会社で事務職をする女性(61)は11月、91歳の母親を茨城県の特別養老老人

夫が東京近郊の老人ホームで離れて暮らす。療養と介護の費用をまかなえないため、生活保護を受け、福祉事務所の紹介で安くて空きがあるホームに入った。「私にはいまの医療や年金の仕組みでは救うのが難しい老人だったんですよ」。妻はそう話す。

「報われぬ国」は原則として月曜日朝刊で連載します。ご意見をメール(keizai@asahi.com)などでお寄せください。

主な病気にかかる入院医療費

病名	入院医療費
脳出血	213万1498円
急性心筋梗塞(こころ)	197万4980円
大腸(たいい)部骨折	190万9768円
脳梗塞	143万 877円
結腸がん	90万1181円
胃がん	86万9587円
気管支がん、肺がん	76万9980円
胆石症	75万3015円
乳がん	72万7213円
子宮筋腫	71万1505円
肺炎	61万 894円
糖尿病	60万9901円
前立腺肥大症	52万1507円
胃潰瘍(かいよう)	51万7644円
ぜんそく	33万 943円
白内障	31万7915円

「医療費の実際は、高額療養費制度で自己負担は1割程度に抑えられます。しかし、高額療養費制度は、自己負担の上限が2割に達するまで適用されません。そのため、高額療養費制度が適用されない場合は、自己負担が2割に達するまで適用されません。そのため、高額療養費制度が適用されない場合は、自己負担が2割に達するまで適用されません。」

高齢者の貧困に詳しい明治学院大学の河合克敏教授は「大都市でも地方でも貧困状態にある高齢者がいる。その多くは高額な医療や介護の負担に耐えられず、病気をきっかけに家計破綻しかねないリスクを抱えている」と指摘する。河合さんは2011年、一人暮らしの65歳以上の高齢者を東京都港区で約4千世帯、山形県で約5千世帯調べた。生活保護の基準額より低い収入で暮らす高齢者がどちらも約4割にのぼった。調査では、基準額は

生活保護受給申請 ためらう高齢者も

港区が年150万円ほど、山形県がおおむね120万円ほどだった。厚生労働省の13年の調べでは、一人暮らしの高齢者は約57.3万世帯、夫婦のみは約69.7万4千世帯いた。うち年間収入が100万円未満は1人暮らしが約14.1万世帯、夫婦のみが約17万6千世帯だった。生活保護を受けている高齢者は約88万人(12年7月時点)で、生活が厳しくても申請していない高齢者も多いとみられる。生活保護は、生活費に加えて医療や介護の費用も税金

「報われぬ国」は原則として月曜日朝刊で連載します。ご意見をメール(keizai@asahi.com)などでお寄せください。